

**避難指示区域等における詳細モニタリング結果
(モニタリングカーによる走行サーベイ第三十巡) の公表について**

平成31年1月30日
原子力被災者生活支援チーム

内閣府原子力被災者生活支援チームは、「総合モニタリング計画」(モニタリング調整会議決定)に基づき避難指示区域等(避難指示が解除された区域を含む。)を対象としたモニタリングカーによる走行サーベイを東京電力ホールディングス株式会社の協力の下で実施している。これについては、平成23年11月16日に、警戒区域及び計画的避難区域の主要道路の走行サーベイ結果を公表して以来、第二十九巡までの走行サーベイ結果を公表してきた。

今般、走行サーベイによる第三十巡のデータが取りまとまったので、それを公表するものである。今後も本モニタリングを定期的 to 実施し、結果がまとまり次第、順次公表していく予定。

【モニタリング項目及び計測場所】

	モニタリング項目	計測場所
モニタリングカー	道路上の地上1mにおける空間線量率(車内の線量率から換算)	避難指示区域等の主要道路(国道、常磐自動車道、県道、主要地方道、生活道路)

モニタリングカーによる走行サーベイ(第三十巡)の概要

【実施期間】

平成30年10月22日(月)～12月13日(木) (第一巡～第二十九巡の実施日については後述)

【計測方法】

- 走行サーベイ(道路上を走行しながら地上1mの空間線量率相当量を計測)により対象地域の空間線量率をおおむね2か月計測
- 国道、常磐自動車道、県道、主要地方道、生活道路の主要道路を対象
- 低線量用及び高線量用の計測器を搭載した車両で道路上を走行しながら、それらの値を記録すると同時にGPSにより位置も記録
- 低線量用の計測器は第一巡からNaIシンチレーション式サーベイメータを使用
- 高線量用の計測器は第一巡及び第二巡では半導体式エリアモニタを使用し、第三巡からは電離箱式サーベイメータを使用
- 第十巡からは同じ構成のモニタリングカーを1台追加し、2台体制で計測

【計測結果】

避難指示区域等の全域を、平成30年10月22日から12月13日まで一巡し、主要道路上の地上1mにおける空間線量率相当量を10m間隔で計測した。

今回（第三十巡）の計測結果を別紙1-1に、1年程度前（第二十八巡）の計測結果を別紙1-2に示す。これを比較すると、全体的に空間線量率の低下が見られる。これは物理的な性質による減衰だけでなく、風雨などにより、移動や流出の影響が現れているものと考えられる。

空間線量率の最高値、最低値及び平均値並びに測定点の数の推移を表1に示す。この表から最高値が若干の上下変動を伴いながら時間の経過とともに低下していることが分かる。また、全域の平均値の推移を見ても最高値と同様に、多少の上下変動を伴いながら時間の経過とともに低下していることも分かる。

表1 全域の計測結果推移

	10巡	11巡	12巡	13巡	14巡	15巡	16巡	17巡	18巡	19巡	20巡	21巡	22巡	23巡	24巡	25巡	26巡	27巡	28巡	29巡	30巡
最高値 ($\mu\text{Sv/h}$)	93 ◆	93 ◆	92 ▲	95 ◆	85 ▲	71 ▲	79 ▲	63 ▲	64 ▲	56 ▲	66 ▲	48 ▲	48 ▲	45 ▲	44 ▲	41 ▲	38 ▲	34 ▲	30 ▲	31 ▲	28 ▲
最低値 ($\mu\text{Sv/h}$)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均値 ($\mu\text{Sv/h}$)	4.0	3.8	2.9	3.5	3.1	2.7	2.6	2.4	2.2	2.0	1.9	1.7	1.6	1.4	1.4	1.3	1.2	1.0	0.9	0.9	0.8
測定点 (個)	153136	152980	142435	153242	154560	155963	154696	158506	158493	160387	161912	161990	162962	161502	176470	164096	163273	161829	155475	151807	146780

注) 第一巡～第九巡のデータは表1から割愛した。(割愛したデータは第十七巡の公表時に報告済み)

最高値の地点◆は、大熊町のほぼ同一地点である。走行サーベイでは、毎回完全に同じ位置で計測することは困難であるため、「ほぼ同一」としている。また、▲は、◆地点より200m程度南に移動した箇所である。最低値(0.0 $\mu\text{Sv/h}$)については、計測限界値以下のため0.0と表現している。

定量的に比較するために、図1に各巡の空間線量率の度数分布を示す。このグラフから、第三十巡は1.0 $\mu\text{Sv/h}$ 未満の地点が増加し、その他の地点はおおむね減少している。すなわち、一般的に空間線量率が減少していることが分かる。

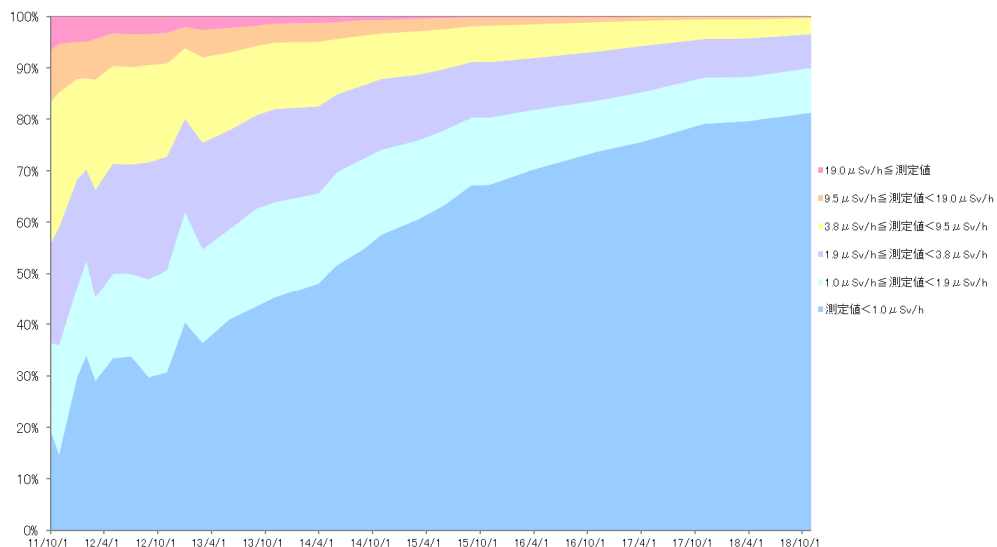


図1 空間線量率の度数分布の変化

次に、市町村別の第一巡における最高値記録地点の値の変化を表2に、そのグラフを図2及び図3に示す。

測定値のうち、第十二巡の多くの地点及び第二十巡の川俣町で空間線量率が一時的に低下しているのは、積雪の影響と考えられる。また、第二十二巡までの測定方法では、低線量域の測定精度に限界があったため、空間線量率が相対的に低い地点については、測定値にばらつきが見られる（このため、第二十四巡から、空間線量率が相対的に低い地点については機器の測定範囲を変更して測定した。）。

こうした事情による多少の変動はあるものの、図2及び図3から、各地点とも、全体的に時間の経過とともに空間線量率が低下傾向にあることが分かる。

表2 計測結果（市町村別の第一巡における最高値記録地点の値の変化）

市町村	10巡	11巡	12巡	13巡	14巡	15巡	16巡	17巡	18巡	19巡	20巡	21巡	22巡	23巡	24巡	25巡	26巡	27巡	28巡	29巡	30巡
南相馬市小高区金谷▲	10.7	10.7	7.1	9.1	8.4	7.9	7.2	6.3	4.2	4.1	4.3	4.0	3.5	3.6	3.2	3.2	2.5	2.1	2.0	2.2	1.6
浪江町井手山田前▲	41.4	40.8	31.9	35.8	31.9	29.3	25.8	25.1	21.8	21.7	19.7	19.0	17.4	14.7	13.9	14.0	13.2	11.8	9.0	9.5	7.8
双葉町山田出名子▲	39.6	36.7	30.9	34.6	30.8	28.3	23.8	22.7	20.2	18.3	17.9	17.9	16.3	10.6	10.8	8.8	8.8	5.4	4.9	5.1	4.6
大熊町夫沢東台▲	68.3	66.4	54.2	66.2	57.5	49.3	46.6	37.3	34.7	28.8	29.4	25.7	24.3	20.6	22.3	19.7	17.3	16.1	14.3	13.7	9.6
富岡町小良ヶ浜松ノ前▲	14.0	13.1	11.3	11.7	11.9	10.3	9.1	9.3	8.6	7.5	7.1	7.0	6.5	5.4	5.8	5.0	4.8	4.3	3.7	3.9	3.3
楡葉町上繁岡下奥海	2.7	2.6	2.4	2.0	1.3	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4	※0.5	※0.5	0.4	0.3	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3
飯館村長泥曲田▲	13.6	12.2	◆	11.3	10.5	9.3	9.6	9.4	8.1	8.0	8.1	7.0	7.0	4.7	5.2	4.9	3.8	3.1	2.8	2.6	2.4
川俣町山木屋久保山	4.4	4.4	2.3	3.9	3.5	2.8	2.8	2.6	2.2	2.0	1.0	1.6	0.8	0.9	0.8	0.7	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5
葛尾村葛尾小出谷▲	19.6	18.8	11.5	16.6	14.9	13.5	13.4	13.4	11.6	10.8	10.1	9.8	7.5	6.3	5.1	4.7	4.4	3.9	3.3	3.2	2.9
田村市都路町古道場々	0.8	0.9	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.4	※0.4	※0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2
川内村下川内五枚沢	4.2	3.7	2.4	2.7	2.5	2.0	1.8	1.3	1.4	1.5	1.5	1.4	1.3	1.1	1.2	1.1	1.0	0.8	0.8	0.7	0.5

注) 第一巡～第九巡のデータは表2から割愛した。(割愛したデータは第十七巡の公表時に報告済み)

◆は積雪のためモニタリングカーが走行できず計測できなかった。

第十八巡までは、地図上の目視により、第一巡における最高値記録地点の近傍の点を抽出し、空間線量率の推移を掲載してきたが、第十九巡から、地理情報システム (GIS) を活用したソフトウェアを新たに導入し、第一巡における最高値記録地点に最も近い地点の値を効率的・機械的に抽出することとしている。

※は第一巡における最高値記録地点において、他の地域 (最大 30 μ Sv/h の測定レンジ) とは異なり低い測定レンジで計測した方がより正確な計測が可能となるため、最大 1 μ Sv/h の測定レンジにて NaI 式シンチレーションサーベイメータで計測したものの。

第二十四巡から、浪江町、双葉町及び大熊町の全域については最大 30 μ Sv/h の測定レンジにて、それ以外の全箇所は最大 10 μ Sv/h の測定レンジにて NaI 式シンチレーションサーベイメータで計測する方式に変更した。さらに、第二十六巡から、おおむね、帰還困難区域は最大 30 μ Sv/h 又は 10 μ Sv/h の測定レンジにて、その他の地域は最大 3 μ Sv/h 又は 1 μ Sv/h の測定レンジにて計測する方式に変更した。

▲の地点は、帰還困難区域に含まれる。

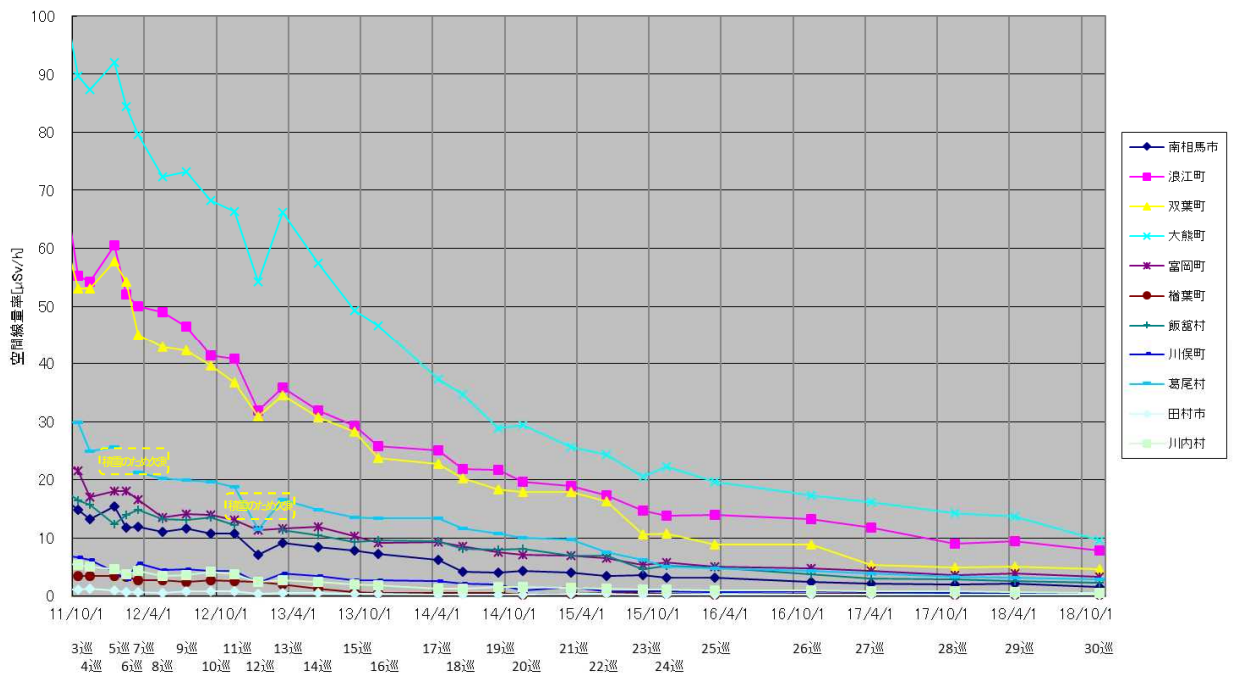


図2 表2の空間線量率の変化

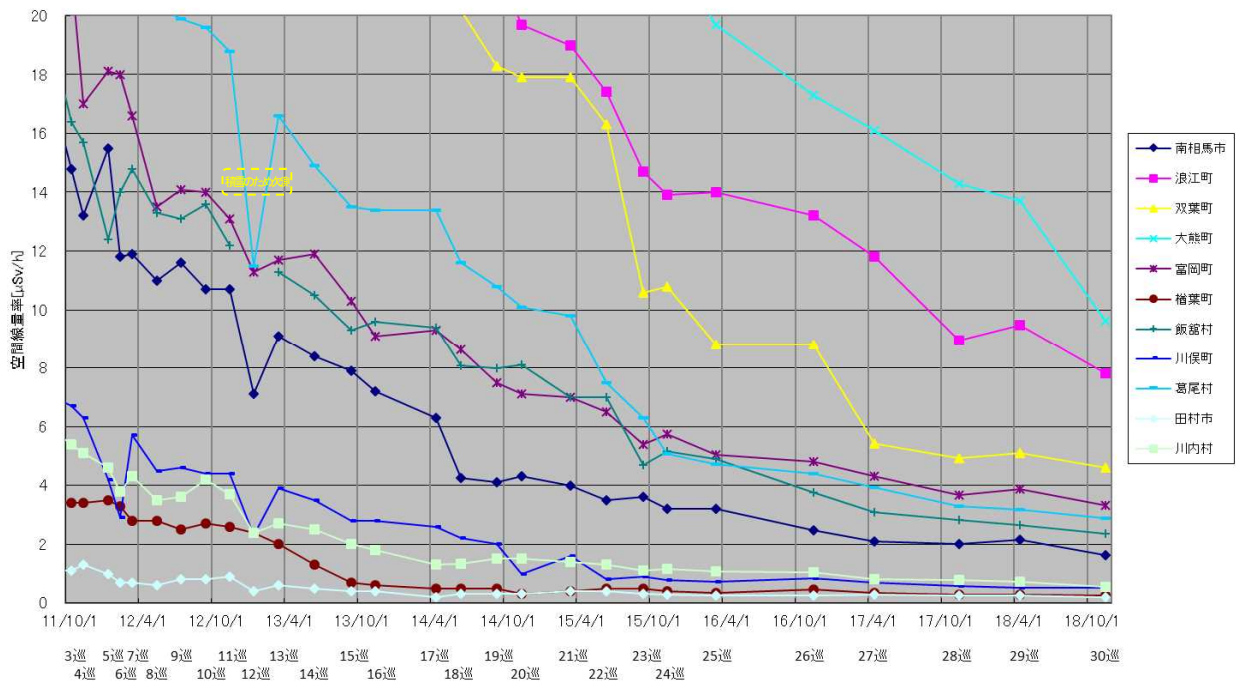


図3 図2のうち20μSv/h以下の拡大

【計測実施者】

東京電力ホールディングス株式会社

(参考)

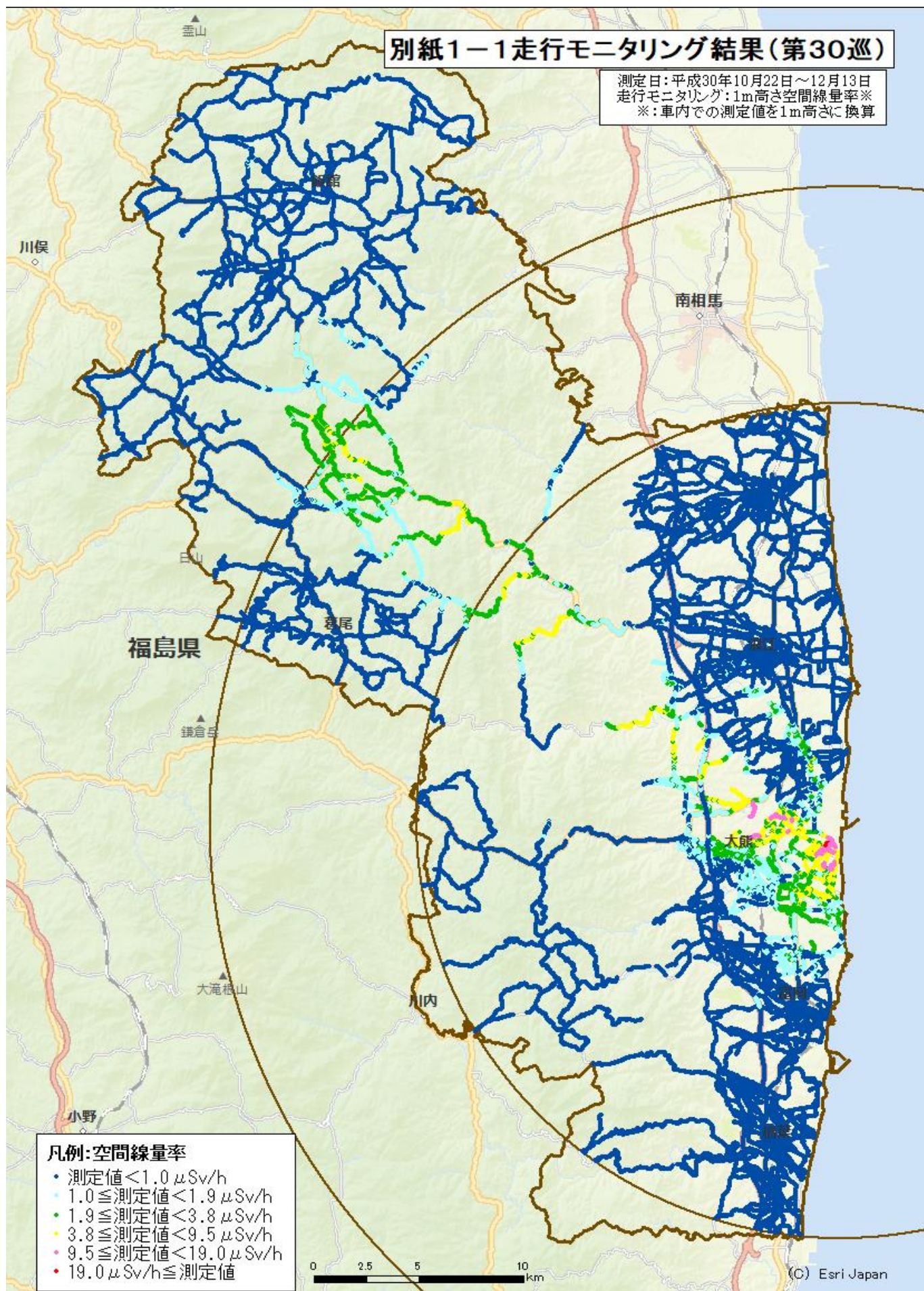
	実施期間	公表結果
第一巡	平成23年8月2日(火)～8月30日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20111116.html
第二巡	平成23年8月31日(水)～10月9日(日)	
第三巡	平成23年10月1日(土)～11月4日(金)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20111216.html
第四巡	平成23年11月5日(土)～12月12日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120202.html
第五巡	平成23年12月14日(水)～平成24年1月30日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120229.html
第六巡	平成24年2月4日(土)～3月10日(土)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120330.html
第七巡	平成24年3月12日(月)～4月16日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120427.html
第八巡	平成24年5月16日(水)～6月18日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120627.html
第九巡	平成24年7月4日(水)～8月6日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20120821.html
第十巡	平成24年9月4日(火)～10月18日(木)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20121026.html
第十一巡	平成24年10月31日(水)～12月7日(金)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20121221.html
第十二巡	平成25年1月9日(水)～2月18日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20130313.html
第十三巡	平成25年3月18日(月)～4月19日(金)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20130528_01.html
第十四巡	平成25年6月4日(火)～7月8日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20130808_01.html
第十五巡	平成25年8月27日(火)～10月8日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20131129_02.html
第十六巡	平成25年11月6日(水)～12月3日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20140114_01.html
第十七巡	平成26年3月18日(火)～4月22日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20140527_01.html
第十八巡	平成26年6月3日(火)～7月4日(金)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20140901_01.html
第十九巡	平成26年8月25日(月)～9月30日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20141226_01.html
第二十巡	平成26年10月21日(火)～平成27年1月19日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20150331_01.html
第二十一巡	平成27年3月16日(月)～4月20日(月)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2015/0626_01.html
第二十二巡	平成27年6月1日(月)～7月22日(水)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2015/0903_01.html
第二十三巡	平成27年8月24日(月)～10月27日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2015/1125_01.html
第二十四巡	平成27年11月5日(木)～12月17日(木)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2016/0215_01.html
第二十五巡	平成28年3月14日(月)～4月27日(水)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2016/0530_01.html
第二十六巡	平成28年11月7日(月)～12月6日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2017/0113_01.html
第二十七巡	平成29年4月4日(火)～5月16日(火)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2017/0602_01.html
第二十八巡	平成29年10月31日(火)～12月8日(金)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2018/0116_01.html
第二十九巡	平成30年4月3日(火)～5月10日(木)	http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release/survey/2018/0607_01.html

※備考 第二巡の終了日と第三巡の開始日とが逆転しているが、モニタリングカーの効率的運用の都合上、一部で逆転が生じたものである。

以上

別紙1-1 走行モニタリング結果(第30巡)

測定日:平成30年10月22日~12月13日
走行モニタリング:1m高さ空間線量率※
※:車内での測定値を1m高さに換算



凡例:空間線量率

- 測定値 < 1.0 $\mu\text{Sv/h}$
- 1.0 \leq 測定値 < 1.9 $\mu\text{Sv/h}$
- 1.9 \leq 測定値 < 3.8 $\mu\text{Sv/h}$
- 3.8 \leq 測定値 < 9.5 $\mu\text{Sv/h}$
- 9.5 \leq 測定値 < 19.0 $\mu\text{Sv/h}$
- 19.0 $\mu\text{Sv/h}$ \leq 測定値

0 2.5 5 10 km

(C) Esri Japan

別紙1-2 走行モニタリング結果(第28巡)

測定日:平成29年10月31日~12月8日
走行モニタリング:1m高さ空間線量率※
※:車内での測定値を1m高さに換算

